

『 6 分科会 』

日本赤十字放射線技師会
常任理事 久保田 利夫

中国南北朝時代、“張僧ヨウ”という名画家が、南朝の金陵にある安楽寺の壁に描いた竜に、最後に睛(ひとみ)を入れたら、壁から絵の竜が出てたちまち雲に乗って天に飛んでいったという故事があります。これから「画竜点睛」という言葉が生まれたとか。壁に描かれた竜は4匹とも5匹とも言われています。

日本赤十字放射線技師会(以下、日赤技師会)は、企画部を中心に日赤ホットライン計画を進めてまいりました。「HOT LINE 記事投稿窓口(通称ホットライン)」をHP上に新設したことで、ほぼこの計画をクリアできました。(その詳細については、日本赤十字社医学会総会での新美理事の発表資料をHPに掲載しておりますので、ご参照ください。)ホットラインについては、実際に利用していただくのが一番ですが、これを使用して会員は日赤技師会や分科会に対し質問・要望等を簡単に投稿することができます。投稿された質問・要望等はHPに掲載され、日赤技師会や分科会、そして会員同士での情報交換がいつでもできるようになりました。会員皆様の積極的なご利用を期待しております。

ホットラインができた10月、時を同じくして分科会がさらに3つ増え、現在ではCT・MR・乳房画像・治療・RI・医療情報と6分科会となりました。新しく始動した分科会の世話人もまた泰斗の雄ばかりです。分科会が発足した2007年においては、分科会と会員とのパイプはHPと学術MLの二本ありました。HPが使いにくい点から、メインパイプを学術MLとし、学術MLの登録・分科会入会を推進してきました。しかし、2008年6月のHP全面改訂によって、HPの利便性が向上したことから、分科会の活動ステージを学術MLからHPへと方針転換しました。以前、分科会に入会された方及び学術MLに登録された方々には大変申し訳ございませんが、分科会入会制は現在休止状態にあります。広報活動不足により、十分にご連絡が行き届かなかったこと深くお詫びいたします。ただ、最近のHPアクセス件数を見てみると月平均700程度で、まだまだ多くの方々がHPを閲覧しているとは言い難いのが現状です。HP文化が浸透するまでのしばらくの間、学術MLを分科会の広告塔として活用していく予定です。

アメリカ大統領で有名なAbraham Lincolnのゲティスバーグ演説を真似れば、「分科会は、全会員の、全会員による、全会員のための分科会です」。日赤ホットライン計画がほぼ完成し、ユビキタスネットワークが整備され、6分科会が活動しだした今、JRCART-pedia(日赤放技ペディア)一賢者の石垣作りの環境が整いました。日赤webにいる6匹の分科会竜に、皆様の手で睛を描き入れ、飛び出した分科会昇り竜が会員の間を行き交い、そして百家争鳴なJRCART-pediaを作り上げていただきたいと思います。